

GUPI

10年の歩み

2014年10月31日

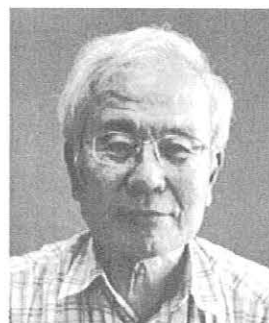
特定非営利活動法人 地質情報整備活用機構
Geological Information Utilization and Promotion Initiative
(GUPI)

寄稿

大矢さんの思い

岩 松 暉

GUPIの初代会長は言うまでもなく大矢 暁氏である。私にとっては大学のサークルの先輩だから、個人的に親しかったが、それだけではない。バブル期後半から崩壊期にかけて、大学の地質学はこのままではいけないと、あちこちに駄文を書いていたのが、大矢さんの目にとまったらしく、全く同感だと賛同いただき、危機感を共有していたのである。そこで、ミレニアムに際し、日本地質学会で、「明日を切り拓く地質学」と題するシンポジウムを企画し、私の基調講演と称する前座の後、大矢さんにご講演いただいた。おおよそ次のような内容であった。



幕藩体制後の日本の歴史を総括すると、明治憲法体制・戦後の55年体制と続き、今は平成新体制への移行期である。応用地質学はそれに応じて、資源地質学中心から土木地質学へと変化してきたが、これからは geo-hazard、geo-environment、geo-technical engineering、geo-information といった社会のニーズに応え得る、地球環境という観点からインテグレートした総合的な大きな地球科学にならないといけない。

それから4年後、私の定年退官に当たって、積年の思いをプッシュするNPO法人を作ろうではないか、と熱心なお誘いをいただき、当時の全地連矢島専務を交えたテレビ会議等で設立の準備を行った。設立直後は、まず、従来守秘義務によって隠されてきた地質地盤情報を国民共有の知的公共財として全面無償公開させることに取り組むことにした。地質地盤情報協議会の設立である。これは今日、Kunijibanとして実現している。同時に普及活動も行って、地質学の社会的認知度を上げることにした。当初はアメリカのガソリンスタンドに置いてあるような geological highway map を作りたいと言っておられたが、私が、日本人の今の地学リテラシーでは、たとえ無料でも地質図は誰も持っていないだろう。ユネスコで始めたという Geopark を導入してはどうか、とお話ししてご了解いただいた。今日の日本ジオパークネットワーク・日本ジオパーク委員会へとつながった。

この2004年には新潟県中越地震やスマトラ島沖地震があり、「現在、地球は活動期に入ったのではないだろうか、地震学者任せではなく、地質家の出番なのではないだろうか」といった会話をした記憶がある。残念ながら東日本大震災が起きる前に大矢さんは交通事故で急逝された。3.11を経て、日本人の中に漠とした変化が生じている。GDP至上主義を見直し、スローライフ・里山資本主義といった方向を目指すべきなのであろう。これこそ大矢さんが望んでおられた平成新体制のような気がする。GUPIは、“災後の地質科学”、“大きな地球科学”をめざす先導役になって欲しいと願う。

【第2代GUPI会長、鹿児島大学名誉教授、(株)防災地質研究所長】